

# 河川の水質検査結果について

町では、河川等の汚濁状況を把握するため、町内6地点において、水のpH・BOD・大腸菌群数等の生活環境項目の調査を毎年1回実施しております。河川の水質には環境基本法第16条による公共用水域の水質汚濁に係る環境基準が定められており、本町においても調査結果を環境基準と比較して評価しています。なお、今回の調査では観測した地点すべてで環境保全の基準を満たしていました。

(R8.2.9実施)

項目名	単位	向野橋	本宿川端	本宿5	八間川	大貫	基準値 (E項目)
pH(水素イオン濃度)	—	7.8 (21.1℃)	7.5 (22.2℃)	7.9 (22.0℃)	7.7 (22.1℃)	7.4 (22.0℃)	6.0~8.5
BOD(生物化学的酸素要求量)	mg/L	5.6	10	6.0	1.4	5.6	10以下
SS(浮遊物質質量)	mg/L	8	5	8	6	31	ごみ等の浮遊が無い事
DO(溶存酸素量)	mg/L	10	4.9	14	12	11	2以上
大腸菌数	CFU/100mL	1800	13000	770	10	55	—

(検査項目説明)

項目名	解説
pH(水素イオン濃度)	水素イオン濃度を示す指数で、pH7が中性で、これが7よりも小さくなれば酸性が強くなり、大きくなればアルカリ性が強くなります。
BOD (生物化学的酸素要求量)	水の汚濁の程度を示すもので、有機物が微生物によって酸化される際に必要な酸素量をいいます。数値が大きくなるほどより汚れていることとなります。
SS(浮遊物質質量)	水中にある不溶性物質の量です。
DO(溶存酸素)	水中に溶けて存在している酸素量を示します。溶存酸素が不足すると、水は嫌気性状態となり、嫌気性細菌により硫化水素、メタン等が発生し、悪臭の原因となることがあります。
大腸菌数	大腸菌を培地で培養し、発育したコロニー数を数えることで算出され、水のふん便汚染の指標として使われる数値です。ヒトや混血動物の腸管内に常在し、ふん便由来でない細菌も含む大腸菌群数と比べてふん便汚染の指標として信頼できるものです。

## 神崎町でくらしのデジタル安全講習会を開催します

- 日時 令和8年6月10日(㊄) 13:15~
- 会場 神崎ふれあいプラザ
- 定員 20名予定(予約制)
- スマートライフA0北総校  
produced by PCデポ



講師：佐藤 凌太

「変なメールが届いたけれど開いても大丈夫？」  
 「キャッシュレス決済って怖くない？」といった日々の小さな不安や活用を一緒に解消しませんか？デジタルを味方にして、より便利で豊かな暮らしを送るための初心者向け講座です。  
 たくさんの皆様のご参加お待ちしております。

- 申込先 神崎町総務課 ☎ 2 11 1